

1年1組 道徳科学習指導案

場所 : 1年1組教室
授業者 :

- 1 主題名 たすけずには いられない ころ
- 2 教材名 「わきだした みず」〈出典：光文書院〉
- 3 主題構成表

<p>■ 内容項目 D 生命の尊さ</p> <p>生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。</p>	<p>■ 内容項目から見た児童の実態（意識）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達が怪我をして血を流していたり転んで体をぶつけて苦しんでいたりする姿を見て、何かをせすにはいられない心が自分にもあるが、自覚できていない。 ・テレビドラマやドキュメンタリー番組などで、命の危機を助けようとする人の姿を見て「すごい」「素晴らしい」と感じることはできる。 <p>■ 意識の要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生の児童にとって、他人の命の危機に直面した経験は、ほぼ皆無である。「命はひとつ。何よりも大切。」と分かっているが、それは言葉として唱えている段階である。 	<p>■ 教材の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・池の水が減り、死にそうなこいやふなのために、隣村のかにが泉まで穴を掘り進める話である。行動を起こすかには「助けたい。」という思いに、児童は、自分でもそうするだろうと共感しやすい。 ・昼夜休まず掘り進めたかにはの姿から、『命の危険を見過ごすことができない。』という思いに迫ることができる。自分の命は危機的な状況ではないが、「ぐずぐずしていると死んでしまうかも。」と重いからだを動かした根底には、『自分と同じく、何よりも大切な一つしかない命を失ってはいけない。』という思いがあることを、かにはの姿を通して児童自身にもあることに気付かせたい。
---	--	---

ねらい

昼夜休まず掘り続けたかにはの思いを考えることを通して、自分の命と同じように仲間の命も大切であり、命の危険を見過ごすことはできないということに気づき、自他の命を大切にしようとする態度を育てる。

■ 研究内容に関わって

〈Ⅱ - ②多面的・多角的な考えや多様な感じ方を引き出し、人間理解、他者理解、価値理解、自己理解を促す発問の工夫と精選〉

「中心発問」のところで、教師が魚役、児童がかにに役となり、役割演技をすることを通して、魚の命の危険を感じ取り、何が何でも助けたいと、行動せずにはいられなかつたかにはの思いに気付かせる。そして、自分にも他人にも同じく大切な命があるからそのような行動をとるのだということを主体的に捉えることができるようにする。

〈Ⅱ - ③自己の生き方について、考えを深める展開後段・終末の工夫〉

児童の日常から、怪我をした友達を助けるために行動できた場面を具体的に挙げ、「できた」ということは、他人の命の危機に直面した時、じっとしていられない心が自分にもあるのだということを自覚できるようにする。

5 学習指導過程

避	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助
導入	<p>1. 怪我をして血が出ている友達を見たら、どうするか考える。 ○運動場で、転んで頭を打って、血を出している友達を見たら、あなたはどうしますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声をかける。 ・助ける。 ・保健室の先生を、呼びに行く。 <p>2. 課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>どうしてほかのひとを たすけるのでしょうか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に休み時間の運動場で遭遇しそうな場面を想定して聞くことで、児童にも身近な問題であるという雰囲気をつくる。 ・自分が痛い思いをしているわけではないのに、どうして助けるのかという疑問から、課題化する。
展開前段	<p>3. 範読を聞いて話し合う。 ○池で死にそうなこいやふなを見たかには、どのように思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このまま水がなくなったら、みんな死んでしまう。 ・大変だ、助けてあげないといけない。 <p>◎なぜ、かには回り道をし、夜も昼も休みなしに三日間も掘り続けたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達が今にも死にそうだから。 ・命は一つしかなくて大事にしなくてはいけないから。 ・命はなくしてはいけない。こいやふなにも、なくしてはいけない命があるから。 ・何とかして助けてあげたいと思ったから。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>じぶんにもほかのひとにも、たったひとつの、なくしてはいけないたいせつな『いのち』がある。だから、ほかのひとをたすける。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・範読を聞きながら「一緒にハラハラドキドキしたところ」「心がぼかぼかしたところ」を見付け、発表することを通して話し合う場面を絞る。 ・「天気が続いた。」「今にも死にそう。」という魚たちの置かれた状況を押さえ、かへの「友達」の命が危険だから、何とかしたいという思いに共感させる。 ・「大丈夫？と声をかける。」という意見も認める。 (自己理解・人間理解) ・多様な考えが出るように、意図的指名をする。 ・教師が死にそうな魚役、児童がかに役の役割演技を通して、かへの思いを理解できるようにする。 (他者理解・価値理解) ・「かに自身の命が危ないわけではないし、自分の泉は水がたくさんあるのだけど、どうして掘り続けたのでしょうか。」と問うことでゆさぶる。 ・大きい石を迂回し、三日間も休まず掘り続けたかには、「自分の命が大切なと同じく、こいやふなにも失ってはいけない大切な命がある。じっとしてられない。何としても(命を)助けなくては」という思いから「掘り続ける」という行動につながったことに気付かせ、板書で押さえる。(価値理解) ・価値につながる意見が出たときは、色チョークで囲み、板書で視覚化する。 ・「だから自分だけでなく、他の人も助けるのだね」と、まとめの言葉に結び付ける。 ・「命は一つ。」「なくしてはいけない。」「自分もみんなもその『命』をもっている。」というキーワードでまとめる。
展開後段	<p>4. 自分とつなげる。 ○「友達の命も大事にしているよ」ということや「大事にできていなかったよ」ということを書きましよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は、休み時間に〇〇さんが転んだとき、一緒に保健室まで行ってあげたよ。 ・ぼくは、今まで転んだ子がいても、何もしなかったけれど、これからはかにさんみたいに助けてあげたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・命を守ろうと行動した場面を具体的に挙げ、振り返りの視点を児童の日常に向ける。(自己理解) ・今までの自分を振り返って、記述する。 ・書き出しやすいように、かへのに向けた吹き出し形式の用紙にする。(『かにさん、あのね』で始まる)
終末	<p>5. 教師の説話を聞く。 ○命を大事にした行動ができた児童を紹介する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の日常を観察しておき、命の危険を感じてすぐに助ける行動をとることができた児童を紹介する。

